

RH-PLANET（地域医療計画評価ネットワーク） ミッションステートメント

■名称

RH-PLANET Regional Health PLAN Evaluation neTwork：地域医療計画評価ネットワーク

■ミッションステートメント

○理念

日本全国どこに住んでいても、住民の「いのち」「生活の質」「尊厳と安心」が最良の状態となる「均てん化」が達成できていることを目指します。

○使命

住民主体のマルチステークホルダーの医療福祉政策の PDCA 管理を支援し、成果が高まる医療福祉政策の実行を支援します。

○活動指針

1.患者・住民中心

医療福祉提供体制の充実のみならず、地域の患者・家族・住民のアウトカム（成果）向上を目指し、患者・住民の状態の動向をモニターします。

2.患者・住民参画

地域の課題解決のための政策・対策に関する PDCA サイクルに、患者・住民が参画することを促進します。

3.アウトカム志向

対策の実行だけでなく、患者・住民の課題解決のアウトカムが得られるまで、変革の達成にこだわり続けます。

4.論理と意見の両輪

データやロジックの活用を重視すると同時に、協議や熟議の場も尊重します。

5.公正と中立の順守

医療福祉が公共財であるとの価値観に基づき、倫理と公正を守り、特定の主義・党派・団体などに寄らない中立性を維持します。

6.マルチステークホルダーを重視

患者・住民を中心に、議員、行政担当者、医療提供者、メディア記者、研究者、企業等民間が対等な立場で一体となって相互に学び合い、協働する取組みを推進します。

■参加者の行動指針

【“一人称”で語る】

批判・批評では、何も変わらない。自ら具体的な提言と行動計画と実践を。

【“場”を造る】

自由闊達で、相互触発される場としての「RH-PLANET 地域医療計画評価ネットワーク」を造ることに自ら貢献する。

【“結果”を生む】

「2023 年までに、患者・社会に良い成果がもたらされるか」を常に問い、参加期間中に具体的な実践に移す。

■行動指針の実践のための工夫

【“一人称”で語る】

- 他の立場を外から批判・批評するのではなく、自らの問題として「対案」を示しましょう。
- 「正しい評価でよい地域をつくる」ため、自分がすべきこと、できることを改めて考えてみましょう。
- 自分の意見は積極的に発信しましょう。

【“場”を造る】

- “利他精神”をもって、場造りに貢献しましょう。可能かつ適切な範囲で、できるだけ自分の知見や経験をメンバーに提供しましょう。
- ビジネスや執筆のネタ探しの場ではありません。場造りに貢献して場が高まった結果として、自分の知見や経験が高まることもあると捉えましょう。
- 活動には、他のステークホルダーの視点を必ず入れましょう。
- 新しい出会いと人脈を発展させましょう。さらに RH-PLANET 内に留まることなく、広く情報交換していきましょう。
- 安心して本音を吐露し、議論できる場をつくりましょう。
- 意見を対立的に捉えるのではなく、ミッション実現のため、建設的にまとめるよう心がけてみましょう。
- まずは、他の立場の人の意見を傾聴することも大切です。
- 声の小さい人は、積極的に発言をしてみましょう。声の大きい人は、時間を独占しないよう留意しましょう。
- 自分の意見が変わることを恐れしないでください。むしろ、自分自身に変化、進化することが狙いです。
- 意見を戦わせても、個人的なことと受け取らないでください。
- 個人攻撃と受け取られうる批判的な意見は、広く表明する前に、まず対象者本人と話してください。
- RH-PLANET での発言は、所属組織を代表するものではありません。
- 守秘義務に注意するとともに、この場で得た情報を利用・発表するときは、個別に対象者の同意を得てください（例：記事にするときなど）また、その成果を RH-PLANET にフィードバックしてください。

【“結果”を生む】

- 直接的結果であるアウトプットではなく、社会の変化であるアウトカム（成果）を生むことを意識しましょう。
- “1～3 年以内”の成果をイメージしながら、マイルストーンを設定してみましょう。
- 「いつまでに〇〇をしたい」と宣言し、周りを巻き込みましょう。
- “今”動いている政治・政策・事業・活動に関わる行動を起こしましょう。
- 良い事例は、日々の実践の中に積極的に取り入れましょう。

以上 2019.10.24 時点版